ちいさな夢から始まったガーデン 〜セトウシくん焼きと興楽園〜

夢邑森のガーデン

【活動のはじまり】

私たち夢邑森のガーデンは、10年以上放置されていた木材会社の跡地をガーデンに変えるべく、2009年７月、西興部村内の女性８名が集まり結成されました。広さ3,500㎡の空地はホテル森夢の裏手に位置しています。「荒れ地のままでは勿体ない」、「花木を見ながら村民や観光客が憩う空間になったらいいね」。そんな想いから活動は始まりました。

【荒れ地との格闘】

庭園に変えようと夢を描いた空地は、掘れば石やマンホールが出てくる荒れ放題の状態でした。手作業で石等を取り除く地道な作業から活動は始まり、その年の秋には宿根草やオンコ等の植樹を行いました。しかし、敷地内は掘れども掘れども砂利や石が出るばかりでなく、水はけの悪さが生育を妨げる大きな要因となって、植えたオンコ97本のほとんどが枯れてしまいました。

掘り起こした石等を一輪車に載せて運ぶ

結成の翌年、地域活性化活動助成を受け地盤整備に努める傍ら、道内のガーデン視察へ。その後も各地の講習会に参加して知識を吸収しながら、自分たちのガーデンに戻れば草を刈り、石を掘り、土を耕し花木を植えました。数年繰り返すうち、植えた覚えのないスイカが実ったり、物置小屋からは約50cmものヘビの抜け殻が見つかったり。枯れる花木がある一方、根づいたものは力強い生命力を見せてくれました。苦楽を分かち合いながら続けてきた草の根的活動は、次第に村からの理解を得られるようになります。2013年には、行政の協力により暗渠工事と客土を実施。ガーデンはようやく植物がのびやかに育つ土壌となりました。

2016年のガーデン全景
歩道にはホタテの貝殻を敷き詰めた

2012年のガーデン全景

【お土産にいかがでしょうか】

以前にも増して植物たちが生き生きとした姿を見せるなか、活動範囲は徐々に広がります。ホテル前にある花壇の整備や興楽園という純日本庭園の手入れを担うようになり、売店活動を通して観光客のおもてなしにも力を注ぐようになりました。2024年度は感染症の影響で途絶えていたイベントが次々に復活し、売店活動が最も忙しかった１年でした。

売店活動を始めたのは2014年。観光客に西興部らしさを味わってもらおうと、村内で採れた山菜や手づくりのお菓子、うどん・そば等を提供してきました。そんな私たちの目玉商品は「セトウシくん焼き」です。西興部村のイメージキャラクター「セトウシくん」の形をしたミニカステラ風の焼き菓子。丑年である2021年発売を目指し開発を始めました。デザインが得意な村民にセトウシくんを立体にしてもらい、焼き型をオーダー

セトウシくん焼き

特注した焼き型

メイド。大阪で焼き方を学ぶ算段も立てていましたが、新型コロナ感染症の影響で大阪へ赴くのは諦め、村内の経験者から焼き方を教わることとしました。粉や樹液、卵の配合を変えつつ何度も試作を重ね、試行錯誤の末、2021年５月の連休に初披露が叶いました。村内で採れた樹液を使ったことで、やさしい甘みが口の中に広がります。西興部村には手づくりのパンや焼き菓子を買える場所がほとんどありません。温かい菓子の登場は観光客だけでなく、村民にとっても心躍る報せでした。

セトウシくん焼き等の販売は毎春・秋に道の駅花夢で開かれる「西おこっぺマルシェ」で実施するほか、夏から秋にかけて行われる村内イベントに出店しています。くわえて、月に一度、村内施設（花夢、木夢、森夢、Qマートの４店）にセトウシくん焼きを提供しています。西興部村へお立ち寄りの際は、ぜひお試しください。

【苔がきらめく興楽園】

西興部村は人口1,000人に満たないちいさな村ですが、道内に数少ない純日本庭園の興楽園を有しています。敷地面積は約8,000㎡。樹齢数百年に達する木もあるという園内は足元一面に苔が広がり、絨毯の上を歩いているような感覚を味わえる場所です。お散歩の場所として子どもたちが訪れることもあれば、夏季には庭園内の茶室を利用して茶道教室が行われます。

純日本庭園、興楽園の入口

庭園の手入れ活動は、2019年より携わってきました。最も多い作業は、苔の上に落ちている松葉等を払う作業です。光合成の邪魔となる枯葉を苔からそっと払います。庭園の広さに対して作業に当たる人数は５人前後。そのため日によってエリアを決め、数日間かけて全体をきれいにしていきます。手を動かしながら世間話を交わしたり、駆けまわるエゾリスを見つけて癒やされたり。お菓子を持ち寄る休憩時間を励みに活動しています。

2023年には、ずっと気にかかっていた池の泥掃除に着手することができました。園内には大小の池があり、それらを繋ぐように小川が流れています。長いこと放置された池には、泥が溜まり、水は濁り、流れが滞っていました。透き通った水に青空や緑が映りこんだらどんなにきれいだろうか。そういう、ちょっとした想像が、私たちを突き動かし、ガーデン作業で使うスコップやペール缶等をかき集め、若手の力も動員し、池の中へ飛びこみました。

役場職員と協働での池掃除

水位を調節する装置はありますが、場所によっては大人の太ももまで泥水に浸かる深さです。長靴は必須。数人は胴付を履き、肘までカバーの付いたゴム手袋を装着し、人力で泥上げをしていきます。水を含んだ泥の重さには驚きました。まだ６月の涼しい時期にもかかわらず、汗だくになっていたのを思い出します。

春に泥掃除をした池は、夏には藻が張り、秋には落ち葉が浮かびます。そして水面から掬いあげた落ち葉は玉ねぎネットに入れて冬を越し、翌春、腐葉土としてガーデンで活用できたのはうれしい収穫でした。

興楽園の開園時期は５月～10月。入園料は無料です。園内には東屋もありますので、散歩やくつろぎのひとときにいかがでしょうか。

【おわりに】

16年続いてきた活動は「ここに花があったら素敵じゃないか」という単純な発想から始まりました。賛同者、応援してくれる仲間がいたからこそ続けられたものですが、ちいさな呟きがなければ木の葉や草花が風に揺れ、果実の甘酸っぱさに頬を震わすガーデンは生まれませんでした。できることに限りはあれども、これからも私たちの夢を大事に抱えて活動を続けていきたいと思います。

夢邑森のガーデンはこちらの看板が目印です